



「TTLの清酒工場」 vs 「霧峰農会酒庄」

●「玉泉清酒」

●「TTL」(Taiwan Tobacco & Liquor Co.)は、台湾公売局が民営化された会社。ビールも造る台湾最大の酒類企業で、日本統治時代の台湾総督府の台湾専売局がそのルーツ。1922年から清酒製造が専売に移管され1973年まで清酒製造は続いたが、その後中断。清酒ブームで1997年から玉泉清酒のブランド名でTTLが製造を再開。なお、TTLは各種酒類の製造だけでなく、多くの輸入酒の代理権ももつ。

●ピーク時の清酒生産量は十数万石だったが、現在は1/10以下、2011年は1万石強。一方、日本から台湾に輸出された清酒は9,000石強なので、台湾清酒消費に占めるTTLのシェアは60%と圧倒的。



●TTLの清酒工場、林口酒廠は、台北から車で30分ほど。観光酒蔵になっている。

●醸造設備は写真のごとく巨艦型。精米、蒸米、搾りなど設備はほとんど日本製。かつては製塩工場まで併設していたそう。



銘柄

会社
&
歴史

生産量

ショップ

工場設備

●清酒「初霧」

●霧峰農会酒庄は霧峰区農会(霧峰は台中県の市の名称。農会は農協のことで、その本店は写真のごとく銀行のように立派)が、地元米を活かすため2008年に設立した醸造所。

●清酒生産量は100石内外。ほかに、同じ銘柄名の焼酎も造る。



●台中駅から車で20分ほど。観光酒蔵、またはミニサケブルリー。古い米蔵を改装したショップのディスプレイは大変きれい。

●コンパクトな工場。搾り機は日本製(ヤブタ)、蒸米機は台湾製など、混成。コンパクトにまとめられている。





「TTLの清酒工場」 vs 「霧峰農会酒庄」

- コンビニに売っているのは600mlのレギュラー品が160元くらい。一方、一番高い製品は最近発売された60%精米の吟醸酒「台湾之美」で、一升入りが1,000元(約2,700円)
- 併設ショップでは、米や酒粕を使った石鹸、化粧品、お菓子等を販売。日本と似ています。



- 元は国営の公売局なので、研究室は大変立派。



- この林口酒廠では、清酒のほかに葡萄酒も造る。「紅麴葡萄酒」と言う名前の通り、麴菌を使った独特の製法。色も結構濃い印象。ブドウ果汁はチリからバルク輸入したカベルネSなど。



一番高価な清酒

ショップ商品観察

- 一番高いのは大吟醸「初霧」。720ml入りで2,200元(約5,900円!)。試飲させてもらいましたが、素晴らしい出来栄。日本の鑑評会でも金賞が取れそう。
- 優れたデザインのギフトセット。写真はお酒・米・蜂蜜の組み合わせ。



研究室



清酒以外の製品



- 日本の廣井忠夫さんが、この地の米(香り米)を活かした酒造りを指導されたとのことパネルで紹介されています。研究室の名前も「廣井酒造技術研究室」。
- 減圧蒸留機(日本製)で米焼酎も製造。生産量は清酒より多い。

臺灣の酒の歴史 「台湾菸酒百年回顧」 (TTL林口酒廠の壁面展示)

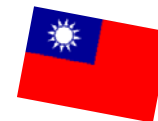


(page3/2+3)

台湾における酒類産業史の貴重な情報であると思い、スナップ写真に撮ったものを記録しておきます。(撮影：2012年6月26日)



臺灣の酒の歴史 「台湾菸酒百年回顧」 (TTL林口酒廠の壁面展示)



(page5/2+3)

